

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 26年 9月 2日

学籍番号	13m0045	学系	コーチング
氏名	古木 里香		
学会等名 (正式名称)	2014 INCHEON ASIAN GAMES INTERNATIONAL SPORT SCIENCE CONGRESS		
開催日程	2014年8月20日 ~ 2014年8月22日		
開催場所 (国・都市名)	韓国・仁川		
発表演題名	Re-examination of the validity of the Japanese Revised Leadership Scale.		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> アジア諸国の方々が韓国に集まり学会が開かれた。初日のレセプションにおいては、日本体育大学の代表として、松浪健四郎理事長が現在日本体育大学で行っている事業についての発表が行われた。2日目の発表においては、スポーツの歴史や心理学など16のカテゴリーに分けられ発表が行われた。今学会の印象としては、海外の方々と様々な意見交換や交流ができ、また新たな学びを得ることができた。雰囲気も良く、とても素晴らしい学会であった。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 関連した発表として「The Role of Emotions in Inducing Motivation and Performance Achievement of Elementary School Athletes」という題目で Seang Leol Yoo による口頭発表では、学びにおけるポジティブな感情がパフォーマンス達成をもたらす動機を強める。しかしながら、ネガティブな感情は否定的なパフォーマンス達成の動機に有害な影響を与えるという結果が明らかとなったことから、コーチのリーダーシップの影響がアスリートの動機にどのように影響していくかを JRLSS を用いて検討していく。その上で、今後 JRLSS の妥当性を検討し、改善していくことで、この発表は、今後の自分の研究の一助になりうると考えられる。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> 韓国の大学院生の方からは、とても興味深い研究であると評価していただいた。また、本研究では分析方法に因子分析を用いたため、分析を実施する上で、因子分析は妥当でない数値の質問項目を削除しながら納得する数値が出るまで何回転も分析を行うといったことを心理学の専門家からアドバイスが頂けた。しかし、まだ本研究では1回転しか分析を行っていなかったため、今後修士論文を作成するにあたり、改善したいと考えている。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
提出期限は学会終了後2週間以内とする。